

早速主人に話すと是も亦大變な驚きで、
「それはいけない人を食べる様な獸を飼てをくよ
り鼠の方が餘程い」と云つて早速「猫」を殺せと
村人に下知しました、

その時丁度猫は大きな粗食でしきりと鼠狩をやつ
ていましたので村の若者は急いで粗倉に四方から
火を放ちました。折から風かヒュー〜と吹てい
ましたので見な〜火の手が盛んになり今度猫は
を殺すところのさはずぎではなく一生懸命に消防に
盡力致しましたがとう〜その甲斐もなくシルダ
村は皆灰になつてしまいましたとさ。
(なはり)

愛らしのカーール

つる子

昔々獨乙の片田舎にカーールといふ子が居りました。
年は九ツ薔薇色の兩の頬、ぱつちりして、愛
嬌ある其目、額に波うつ金色の髪など、げに、愛
らしい一少年で御座いました。年とりたるヒルダ

といふ姉様の外兄弟皆で五人、御母様は幼き昔な
くなつて、御父様の手一つで育ちましたが、家が
大層貧しいので寒さと飢とはよく此兄等の知つ
て居つたまで御座いました。而し有福の家の子
よりも猶幸福で、あつたのは五人とも大層仲よ
しで粗末な食物に満足しつゝ、誠に楽しく暮した
そうに御座います。中にもカーールは幼いながら
も中々親切な強い子で、何時も顔よく買物かひに
参りましたが、或る夕方カーールは隣村まで買物
に参りましたが、丁度冬の最中として、白雲にとざさ
れたる廣い廣い野原を横ぎり、寒さにまけず、風
に怖ぢず、凍える手に、大きな牛乳の瓶をさげて
我家をさして急ぎました。山は冷めたき月の夜に
静かに白く、星は輝く、唇に「急げカーール子供
達が待つて居ます」と云つてるやうに見えて居ま
す。急ぎ急いで、カーールは終に、重苦しげに雲
を靄へる我家の窓に、樂しげに輝きかどれる燈火
を見たときには、寒さを忘れ、飢を忘れ、思はず

「全速力で走り出ししました。入口の戸を押しあけ、今歸りました」と云ふや否やせいたる息のうちに

ヒルシユフオーゲル！ ヒルシユフオーゲル！

嬉しい不僕はまたお前の傍に歸つて來た、何時もく夏の様でいな。

となつかしさうに申しました。扱ヒルシユフオーゲル！とは何のをで御座いませう。兄弟？ イ、エ、可愛い小馬？ イ、エ、おもしろいちんころ？ イ、エ 奇麗な奇麗な陶器のストープで御座いました。室の片隅に据ゑられて殆ど天井迄も届きさうな高さ、花鳥人物の繪をもて麗はしく色どられ、頂には金の冠の様な飾、黄金の四ツの足は丁度獅子の爪の様、金色燦爛、美しいと云はうか立派と言はふか見ぬ人には想像のつかぬ程貴いもので御座います、何故ヒルシユフオーゲルといふでせう何故こんな立派なストープが貧しいカアールの家にあるでせう？、げに此ストープは非常な古物で六十年前カアールの親父様が或る崩れた家

の下から少しも損せず掘り出したので、後で聞くのと、ヒルシユフオーゲルといふ有名な陶工が拵へた貴重品だと云ふのが解りました。其れから、此五人の子供達はヒルシユフオーゲル、ヒルシユフオーゲルといつて、丁度生きている者を可愛がる様に此ストープを愛しました。夏の日には緑の苔を持つて來て其の周圍に着せかけ赤い夏草を以て飾をそへて喜び、冬の日には其まはりに踞つて栗を焼たり、胡瓜をくべたりするのが、何よりの楽しみで、冷たい氷雪の上をも厭はず、楽しく學校から歸つて來る程で御座いました。中にもカアールは一番の仲よしで何時も何時も

僕が大人となつたら陶器つくる人になつてお前と同じ物を拵へませう。そして、お前は僕が新しく建てた立派なお室へ拵つてやらう。

とヒルシユフオーゲルの肩をなでつゝ、申して居りました。

買つて來た牛乳で、夕飯を濟した後は、例によつ

て、子供等は皆ストーブの周圍に集つて樂しげに遊んで居りました。お父様は朝出たさき歸つて來られませんが、寢よといふても今暫しと願ふ兒等の請を許して、姉も共々笑ひ興する聲のうちに、入口の戸が開き、吹雪ふき込むと思ふと、お父様は歸られました。非常に疲れた御様子で、靜かに椅子につかれ、力なき聲で「皆んなおやすみ」といはれますと、大人しい子供達は皆次間に行つてしまひました。カアールは仲よしのストーブの傍に踞つて、是も温しくやすみました。姉のヒルダが子供をねかして、出で來ますと、父様はいかにもがっかりしたやうに溜息をつかれ。

ヒルダ！私はモーヒルシュフオーゲルを賣つてしまつた寒さは強し、食物は無し、どうも金が必要だから、今夜半金受取つたから残りの半金は明日行商がストーブをとり來る時、受取れる筈だ。

マアお父様！此寒いのに！子供が寒さで！

とヒルダは驚きと悲みとに顔色を失ひました。眠たさに半眼を閉ぢかけたカアール、是を聞いてやをら立ち上り、

エ？、ほんとう？、お父様！、うそ言ちやいやそんな事ありません！

と、ヒルシュフオーゲルが賣られるならば、天も落つるとカアールには思はれたので、御座いませう而し父は其の眞實なのを申します。明日商人が取り來るをも聞かされました。

お父様！ お父様！ ヨーお父様！ 私、わたし

た町に行つて、雪掃きでも、道掃除でも、何んでも、致します。出來る丈、働きます！そして御金を儲けます、さつと、皆が助けて呉けます。

だからネ、ヒルシュフオーゲルを賣ら無といつて下さいな、ネお父様！ ネ……………ネどうぞ御金を

を商人に返してやつて下さいな

父は一言も云ひ出でず、唯悲しげにカアールの顔をジーツと見つめ、愛はしげに立ち上り、ランバ

を持って、次の室へ行つてしまはれました。お姉様のヒルダは泣き伏すカアールを、兎や角と慰めましたが、悲しさに心亂れてか、カアールは姉の言葉は耳にも入れず、洋燈はなし、姉は已むなく行つてしまいました。鼠が出て来て床の上を駆けまはります、室はだん／＼寒くなつて参ります、カアールは身動きもせず、虹色に彩られたるストーブの側にうづくまり、顔をびつたり床につけて一夜泣きあかしました。

夜は漸々、あけかけて來ます、お姉様は朝餉の用意にランプを持って出て來ました。カアールの傍に座り自分の頬をカアールのにつけて、

「カアールヤ、カアールヤ、ドウしました？　こちらお向き、お姉様ですよ、話してーサア」

やがて戸を叩く音かして、聞き慣れぬ聲が聞えしました。

御免なさい商人で御座います。ストーブを戴きに参りました。

ヒルダが戸を開けますと、澤山の人達が手に幾本の繩を以て入つて來ました。グル／＼／＼／＼ヒルシーフェルを縛つて、手車の處へ持ち出しました。カアールは唯黙つて壁に向つたまゝ、切に涙が何時になく青ざめた兩の頬を傳つて！

通りかゝつた知り合ひの一老人が入つて來て、

カアールさん！あの立派なストーブをお父様が御賣りなすつたつて？、而しさう泣かなくつてもいゝぢやありませんか。若し私がカアールさんだつたら大きくなつたらどんな遠い處までもヒルシーフェルを探しに行きます。あとに歩いて行きます。泣くのおよし、何時かきつとあれに遇へますよ、カアールさん

と新しい一つの望をカアールの惱裡に残し置いて老人は行つてしまいました。

探しに行く！　あつて行く！　アーンウだとカアールは遠に起ち上りヒルシーフェルを乗

せて行く車のあとを一目散に追かけました、其行
 當どんなにしたかカアール自身も覺えぬ程であり
 ますが、ヒルシーフーゲルが、或るステーション
 から瀟車に乗せられて、運び出さるゝ迄に、カア
 ールは何時かストーブの中に入つにしまいました
 どうして入つたので御座いませう。ストーブには
 糞も着せてあります繩もかけてあります。多分わ
 の鼠が穴をわけるやうに噛んだり、かぢつたり、
 押したり、ひつぽつたり、夢中になつて人足の休
 んでる間に、ストーブの口から入り込んだので御
 座いませう、而し誰一人之を知りつけた者はあり
 ませんでしたから、カアールは安らかに其中に入
 り、昨夜來の疲れで、何時か夢に入つてしまいま
 した。瀟車は段々進んで行きます、眼を覺しては
 暗さに驚き、夢に入つては姉を思ひ父を考へ、扱
 てはまた瀟車が止つてカアールが見つけられて、
 殺され相になつたをなど、現のやうに思はれて、
 安き心地もなく長い時間を過しますと、愈々瀟車

は止りストーブは下され、再び運ばれて、或るお
 家に着いたやうです。なんか二階へでも登せらる
 様です、扱暫く、人足の人達が休んだ後厚い
 敷物の上を運ぶやうに、みんなの足音が静かにし
 つとりと聞えまして、ヒルシーフーオゲルは立派
 な室に据ゑられた様です。オ、立派なストーブぢ
 や、などいふ聲が聞えます。カチャツと音がして
 眞鍮の戸を誰か開けますと、

オヤマア、何でせう、着物が！、アラマア子供

！ほんとの子供！

周囲の人の驚は一通りぢやありません。カアール
 はストーブの中から飛び出して誰かしらん、其前
 に立つて居らるゝ方の足下にひれ伏し、

どうぞ私をこゝにおいて下さいませ。私は此ヒ
 ルシーフーゲル！私の一番の仲よしのヒルシー
 フーゲルと別れるのが辛くつて一緒に参つたの
 で御座います。どうぞ一緒に暮さして下さいませ
 し。どうぞ、

と両手を合せて御願ひいたしますと其御方はにこ
 可愛い子ぢや、なぜストーブに入つて来たか話

すがい、驚くとはない朕は此國の王様ぢや
 と豊かな御聲でいはれました。カアールは驚く處
 ではありません。王様は大層親切な方だと聞いて
 居りましたから大層喜び、

ア、王様！此ストーブは私共が何より大事に可
 愛がつて居りましたのですが、家が貧乏で御座
 いますので、お父様が賣つてしまはれましたの
 です。私ストーブを持つて行かれては明日から
 淋しくてたまりません。夢中になつて追かけて
 参りました。私明日からヒルシーフェルや其
 他のあなたのストーブに、焚く木を伐りに出か
 けて、毎日よく働きますから、どうぞ此處にお
 いて下さい。ヒルシーフェルト一緒に暮さし
 て下さい。私が居りませんとストーブがどんな
 に淋しがるか知れませんが。毎日私が養つて居
 つたので御座いますから。カアールの顔を王様
 と涙ながらに願ひ上げます。カアールの顔を王様

はつくぐと御覧になり、

マテお前は大きくなつたら何にならうと思ふか
 樵夫に？

イ、エ私は陶工になりたいので御座います。ヒ
 ルシーフェルの様に、そして立派なストーブ
 を拵へたいので御座います。

そうかよく解つたモー泣かずに、起て！可愛い
 兒ぢや朕が引き受けて立派な陶工に育て、や
 らう、若しお前が甘一才になる迄に、此ストー
 ブと同じ物を拵へるやうになつたらヒルシーフ
 ーゲルは屹度お前に返してやる。

と是れから王様はカアールをば、一方ならず御寵
 愛になり田舎に居る其父にも詳しく手紙を下さい
 まして、いろくと御親切に御育て下さいました
 ので、カアールは日夜専心勉強をして、とうとう
 立派な陶工になり、甘一になつた時、ヒルシーフ
 ーゲルを頂戴して再び親兄弟を善ばせることが出
 來ました。ヒルシーフェルもどんなに嬉しかつ
 たで御座います。